

ねがたびと

発行日 令和4年2月25日
発行者 袖ヶ浦市根形公民館
〒299-0255
袖ヶ浦市下新田 1277
TEL 0438-62-6161

題字：降矢玄龍先生

未来へ踏み出せ！新成人！



令和4年1月9日(日)、根形地区成人式を無事開催しました。なお昨年の成人式は、新型コロナウイルス感染症拡大と千葉県を含む1都3県に緊急事態宣言が発令されたため中止となりましたので、2年ぶりの開催となりました。

当日は、37名の新成人や保護者、恩師、来賓等が出席し、厳粛な中にも心温まる成人式を根形公民館の多目的ホールで開催されました。新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）の感染拡大防止対策として、マスクの着用、検温、手指消毒等を確認するとともに、会場内は1m間隔に椅子を用意するなど、対策を万全に行いました。

式典終了後の記念行事では、保護者と恩師を交えて、コロナ禍でもできることを新成人自身が企画・運営し、ビデオレターや学生時代の映像視聴、集合写真撮影を行うなど、地域を巻き込んだ根形地区独特の伝統ある成人式となりました。

また、昨年好評であった撮影スポットを青少年相談員の協力のもと今年も設置し、新成人同士だけでなく、保護者も交えて笑顔で撮影している姿が印象的でした。

以下に、新生人代表の言葉（抜粋）を掲載します。ご一読ください。

この二十年間私たちは家族をはじめとして、友人、先生、地域の方などたくさんの方に支えられてきました。そうした方々のおかげで今の私たちがあります。今まで支えられてきたことへの感謝の気持ちを言葉だけでなく、これからの私たちの行動で示し、今度は私たちが誰かを支えられる人にならなくてはなりません。仲間の中にはすでに社会の一員として仕事に従事する者もいます。また、夢の実現に向け学業に励んでいる者もいます。それぞれが形は異なりますが、自分を育ててくれた家族、恩師、地域へと恩返しをしていくために前進していく覚悟です。私自身は東京の大学に進学し、初めて地元を出ました。それによって、通学時にすれ違ふと多くの方が笑顔で挨拶してくれる根形地区の温かさをより一層感じました。今日成人という節目をともに根形地区で過ごしてきた仲間と迎えられることを大変嬉しく思います。今いる場所はそれぞれ違いますが、この根形地区で過ごしてきた日々を思えばどんな困難も乗り越えていけると思います。どんな時も励ましあい支えあってきた仲間たちと、いつも温かく見守ってくれるこの町が私たちの誇りです。まだまだ未熟な私たちですが、今日を第一歩として、立派な大人になれるように未来へと踏み出していきます。

※新成人代表の言葉より抜粋

新成人代表 鈴木 聖章 さん

新成人フォトメモリアル



厳粛な式典となりました



恩師を交えて



新成人の代表あいさつ



司会進行の田村さんと鈴木さん



記念行事では学生時代の映像も



撮影スポット前で

ねこまろ

スタッフ募集中!

ねこまろがスタートして早7年。その認知度や内容も年々グレードアップしてきました。新型コロナウイルス感染症の発生により、活動内容が制限される中でも、特別版（ハロウィンや謎解きウォークラリー等）を企画・運営するなど、N.O.C（大学生を中心とした若者のグループ）メンバーが大活躍しています。あなたも共に活動してみませんか？興味関心のある方は、根形公民館にお問い合わせください。



3/12~3/20
(土) (日)

サークル作品展 いよいよスタート

根形公民館で活動する陶芸・絵画・書道・生け花の各サークルの作品展を根形公民館の多目的ホールにて開催します。3年ぶりの開催となる本作品展は、コロナ禍でも創作活動に励んだ力作が勢揃いします。是非、足をお運びください。

※来場の際は感染症対策にご協力ください。



ねこまろinウインターを開催しました！！

12月19日（日）に「ねこまろ inウインター」を袖ヶ浦高校の事業協力を得て実施しました。根形小の児童2名、根形中の生徒3名、未就学児2名、他多くの保護者が、袖ヶ浦高校書道部・新体操部・吹奏楽部のパフォーマンス発表と体験教室に参加しました。まずは書道部。書道ガールズ18名により、大きな筆で『みんなで作ろう 明るいまい日を 大人も子どももかがやけ ねがた』と書くパフォーマンスを披露しました。「書初め教室」では、学校の冬休みの学年別の課題練習と本書きを個別に支援していただきました。次は新体操部。個人種目の『棒』『ロープ』『こん棒』をそれぞれ3名が迫力あふれる演技を披露しました。体操教室では、前転や後転、側転など、新体操部の模範演技を見た後、それぞれの種目に分かれて練習をし、個々にコツを教えていただきました。最後は吹奏楽部。部員43名によるマーチングバンドを正面玄関前で披露した後、多目的ホールに移動し、新体操部と吹奏楽部によるコラボレーションを実施しました。子ども達にとっては、高校生のパフォーマンスを間近に見たり、書道や体操の指導を受けるなど、よい体験になったと思います。この事業をとおして、子どもたちが「将来〇〇をしたい」などを考えるきっかけづくりになれば幸いです。

書道部のパフォーマンス作品



体操部による体操教室



吹奏楽部のマーチング



のぞいてみよう！

地域再発見講座が、今盛り上がっています！！

根形公民館では『私たちが暮らす地域の成り立ちや歴史の一旦をたどり、先人たちの知恵や歴史的背景を探っていく学習をとおして、地域の課題等を発見するとともに、講座生の主体的・継続的な学習につなげる』ことを目的に、地域再発見講座を開設しています。

今年度は、「袖ヶ浦の方言」や「房総と袖ヶ浦の熊野信仰」を探ったり、久留里城下町の歴史探訪などを行いました。来る3月16日には「かずさDNA研究所」でDNA抽出体験や施設見学を行います。これらの活動に興味・関心のある方は一緒に学んでみませんか。

詳しくは根形公民館にお問い合わせください。



移動教室(久留里散歩)



郷土博物館学芸員の講演

山野貝塚のあれこれIV

郷土博物館 西原崇浩

これまで3回にわたりまして、国史跡山野貝塚の特性や重要性などについてご紹介してきましたが、今回は山野貝塚の将来像についてお話しします。

保存活用 計画の策定

山野貝塚は平成29年10月13日に国史跡に指定されましたが、次のステップとして教育委員会では、令和2年3月に『山野貝塚保存活用計画』を策定しました。この計画は、その名のとおり、国史跡に指定された山野貝塚を将来どのように保存し、活用するかを計画するもので、先々の山野貝塚の取扱方針を明確化しました。(※市HPからダウンロードできます。)

その計画の中で、どのように保存していくか、という課題については、本来は保護すべき遺跡範囲全体の指定が望ましいのですが、現時点では約7割しか指定を受けていません。そのため、残りの3割の追加指定を行っていくことと、史跡の公有地化を進めることがあげられています。これにより、遺跡全体の管理と保存が可能となり、次世代に引き継いでいくことができます。

次に、活用面については、これまで取り組んできたシンポジウムなどの講演会や現地説明会実施のほか、新たにボランティアガイドの開始や郷土博物館や周辺文化財と一体化した活用など具体的な活用内容も示されています。

特に周辺文化財と一体化した活用については、遺跡で言えば、前回ご紹介しました宮ノ越^{みやのこし}貝塚や大宮台貝塚、真里場古墳群^{まりば}、神社仏閣では袖ヶ浦市指定文化財の飽富神社^{あきとみ}及び東照宮^{とうしょうぐう}や飯富寺^{いいとみ}の十一面千手観音菩薩立像、施設では郷土博物館などが周辺に点在しておりますので、歴史を体感できる広域的な整備が期待されます。

史跡整備

さらにこれらの取り組みを実施し、史跡の保存と効果的な活用を行うための基盤として、史跡の整備を進めることがあげられています。現時点の整備としては、案内板の設置と史跡へのルートを示す誘導表示の設置になりますが、具体的な整備内容はこれから計画していきます。

なお、史跡整備には保存のための整備と活用のための整備に分けられますが、活用のための整備では、山野貝塚の本質的価値、つまり史跡に指定された理由を理解してもらうために実施しなければなりません。そのためにも、どのような整備が必要なのかを様々な分野の知識を得ながら詳細に検討します。しかしながら、山野貝塚の発掘調査は全体の約3%のみで、全体的な遺跡の内容がわかっていません。そのため、より明らかにしていく目的意識をもった発掘調査を実施する必要があります。

新たな価値 の発見

令和2～3年度には貝塚の中央部が窪んでいるので、その理由を確かめようと調査を実施しました。人為的に土地が削られている可能性があり、マツリの道具も出土したので、解明の手掛かりになるかもしれません。さらに言えば、山野貝塚が形成された縄文時代後期の時代は、マツリの道具が伴うような大型住居などの特殊な遺構があったりしていますが、その痕跡も見つかっていません。

一方、山野貝塚では出土品から貝や魚、動物を獲得していたことはわかっていますが、植物の利用についてはほとんどわかっていません。このような不明点を把握するための調査も必要となります。このような目的意識をもった調査により、新たな価値を発見し、その成果を整備に取り入れていく必要があるのです。

整備までには時間を要しますが、今後どのような姿になるか楽しみにお待ちください。